

Y21a 素核宇宙多機関連携プロジェクトの広報

吉戸智明, 永井智哉, 矢部あずさ (筑波大学), 入江敦子 (KEK)

2011年度に始まった文部科学省 HPCI 戦略プログラム分野5「物質と宇宙の起源と構造」で行ってきた多機関連携の広報について、4年間の成果と今後の展望を述べる。また、広報の効果に関して主にコスト面から考察する。HPCI 戦略プログラム分野5は、国内10の大学・研究機関が参画し、スーパーコンピュータ「京」を使って素粒子、原子核、宇宙の計算科学を推進するプロジェクトである。計算基礎科学連携拠点（代表機関：筑波大学計算科学研究センター）が運営している。2020年運用開始予定のポスト「京」プロジェクトが始まっており、長期的な視野に立った広報が必要とされている。広報は組織マネジメントの一環であり、その目的は以下の3点に集約される。(1) 組織と社会のより良い関係を構築し、組織の存続・発展に寄与する。(2) 組織が運営判断をするのに必要な、内外の情報収集をする。(3) 集めた情報を活用し、社会への情報発信や組織運営に生かす。

広報戦略を立案のうえ(2)と(3)を実施して、(1)の達成を目指した。(2)HPCI 成果発表データベースにより、ワンストップかつリアルタイムの情報収集・発信を目指した仕組み作りを行っている。データベースは、高度情報科学技術研究機構が中心となり、理研計算科学研究機構と戦略プログラム分野1~5の協力で構築した。(3)4年間で行った、プレスリリース、天文イベント実施、クォークカードゲーム制作と一般公開等への出展、ウェブマガジン、ムービー、カードゲームウェブ版の制作・公開を行った。以上の成果に関する考察を行い、今後の展望を述べる。